学校運営協議会　会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第８条第１項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

１　会 議 名　　関特別支援学校　学校運営協議会　（第１回）

２　開催日時　　令和５年６月１３日（火）　１０：００～１２：００

３　開催場所　　関特別支援学校　大会議室
開催にあたり、委員による授業参観を実施した。

４　参加者

会　　長	ダーリンプル・規子	桜花学園大学保育学部教授
副 会 長	澤井　基光	岐阜県民生委員児童委員協議会会長
委　　員	深見　大輔	同窓会会長
	梅村　美紀	Man to Man Animo 株式会社マネージャー（欠席）
	清水　惠子	各務原市福祉の里所長
	高木　　哲	岐阜県立ひまわりの丘第一学園次長
	丸山　香枝	ＰＴＡ会長（欠席）
	水野　友有	中部学院大学人間福祉学部准教授（欠席）
	森藤　由幸	関市民生委員（欠席）
	吉田　純也	株式会社Ｆデザイナーズ代表取締役
学 校 側	渡辺　政幸	校長
	井原　　誠	教頭
	佐橋　朋子	事務部長
	上村　　篤	小学部主事
	飯田　直樹	中学部主事
	髙橋こう子	高等部主事
	則竹　裕子	教務主任

５　会議の概要（協議事項）

（１）学校運営方針について

・対話を重視したチーム力の向上　　・感染症対策を講じた学習活動の工夫
・学習指導要領を反映した教育課程の改善　　・学校全体での専門性の向上さ
・学校ホームページの充実、地域とのネットワーク作り
・働き方改革プラン２０２３によるワークライフバランス

意見１：５類に変更後の感染症対策について、家族に陽性者が出た場合は、どのような対応をしているか。
⇒マスクができない児童生徒は別室対応をする（５日間）。
⇒職員も出勤をしても別室対応をする。

（２）作業製品価格について

・現物を見ながら紙漉き班の製品と価格、陶芸班の製品と価格について説明

意見１：材料費との関係を考えて値段がつけられている。いろいろなところで製品を並べられると良い。

意見２：製品について、色やデザインの決定について、生徒がどのくらい関わっているのか。
⇒生徒と相談しながら、生徒のアイデアも取り入れながら行っている。

意見３：与えられたことをするばかりでは自主性が育たない。生徒が色や形を決めるなど自分で考えて行える活動を取り入れることが重要。色合いを工夫することで価格設定を変えることも検討するとよい。

意見４：製品について、生徒は売るために作成しているのではない。授業として自分の思いを大切にして、生徒に値段をつけさせて、売る経験をさせていくのも必要である。

意見５：長皿については完成度が高い。もっと金額を高くしても買う人がいると思われる。

意見６：作業製品については、完成度が高いものがいくつかあるので、生徒が、私たちが作ったものが売れたという喜びに繋がるようなプロセスで取り組んでいくことができるとよい。

意見７：製品について、売れなかったら値段を変えたり、パッケージにして販売したりするなど、トライ＆エラーで生徒たちを巻き込みながら取り組んでいけると良い。

（３）授業・児童生徒への支援について

意見１：授業参観の表を参考にしながら参観し、何をしているのかもよく分かった。児童生徒の表情もとても良かった。毎日関わっている教員が児童生徒のことをよく分かっており、児童生徒が安心して学ぶことにつながっている。

意見２：２０年前と比べると、児童生徒の状況や教師の対応の仕方も変わっている。教室の中のＩＣＴ化も進んでいる。障がい者とＩＣＴは相性がよいと考えるが、学校で行っているＩＣＴ支援が、卒業後も継続して提供できることが大切である。

意見３：今の教育環境は素晴らしいが、この子たちが学校を卒業してからどうなるのかを考えながら見ていた。卒業後もこのような環境があるとよいが、社会に受け入れる環境があるのかということをもっと考えていく必要がある。

意見４：授業を参観するといつも新しい発見がある。少人数であることは、一人一人に手厚くできるチャンスである。児童生徒一人一人に合わせた支援をしていた。医療的ケアルームの場の設定、スヌーズレンルームの新設、ＩＣＴ機器の活用など日々の教員の工夫が生きている。

意見５：「キャリーロコ」を使った実践はよかった。株式会社今仙技術研究所と福祉の里たんぽぽ　が共同で開発した経緯がある。スイッチなど現場で工夫しながら実践されているのが感慨深い。

意見６：学校では、一人一人にきめ細かな支援がなされている。学園では、集団の中の一人としての支援になりがちだが、学校で学んでいる力を学園での支援や生活環境の設定の参考にしたい。

意見７：学校環境、設備・教員配置等、生徒たちは恵まれている。長い生徒なら１２年間この環境で過ごし慣れていくが、卒業後の事業所はそこまでの環境が用意されていない。事業所側が環境を整えて差を埋める必要があるが、教員も卒業後の事業所の実態をもっと知る必要がある。

（４）校長より

教員の仲間同士では批判しにくいところもある。今後も忌憚のない意見を得て、子どもたちに返していきたい。

（5）会長挨拶

いろいろな子どもたちがいて、専門の医師や療法士がいるが、毎日一緒に生活している教員はとても大事な存在である。障がいを治すことはできないが、日々ともに生活していることの大事さ、その中で見えてくることの大事さを改めて思う。

地域の人たちにこの学校を見てほしい。教師と生徒たちの関わりを見てもらい、それを支えてもらえるようにできたらと強く感じた。緩やかにそうした関係を築いていくことができるとよい。

６　会議のまとめ

第１回学校運営協議会では、全委員より今年度の本校の学校経営計画を踏まえた学校運営方針に対して承認が得られた。また、生徒の作業製品価格についても、全委員より適正な価格であると承認を得た。

実際に授業を参観するなかで、多くの委員が当校の教職員が児童生徒とよい関係を築き、一人一人に合わせてきめ細かい教育を行っていることを再認識した。ただ、児童生徒の卒業後の生活環境を充実させるためにも、もっと地域の人に学校を見てもらえるような取組が必要であるという指摘を受けた。今後、どのように地域に向けて発信し、地域との関係を築いていくかが課題となる。